

希望の種

ふくおか
NPOファイル

24

国際協力機構 (JICA)

が実施する青年海外協力隊は、発展途上国に対して行う、経済・社会の発展に寄与するための海外ボランティア派遣制度です。今年6月30日現在で88カ国に4万1604人の実績があり、地域はアジアやアフリカを中心に中南米やオセアニアなど、活動内容も農業から保健・医療、教育、鉱工業までさまざまです。

NPO法人「九州海外協力協会」は、青年海外協力隊を中心とするJICAボランティアの募集説明会や、OB・OGのネットワークづくり等の支援を中心に行う団体です。団体の理事や職員も青年

九州海外協力協会

事務所＝福岡市博多区▽電話番号＝092(415)6536
メールアドレス＝ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp

海外協力隊経験者で構成され、2004年に設立されました。

その背景には、協力隊のメンバーは発展途上国の人々のために貢献すること、もう一つ、日本に戻ってきた後に、

世界の文化や人々の暮らしを身の回りの人たちに伝え、草の根的に多様性の理解を深め

途上国への理解深め

ていくという「社会還元」という概念や、思いがあるからなどと言います。

かつて青年海外協力隊員としてミクロネシア連邦に赴任し、現在は協会職員の米村淳平さん(32)はこの3年間で約45回、九州各地の小中学校で出前授業を行いました。「子ども時代に耳聞きしたことは心に響きやすく、その後も強く印象に残っている」という自身の経験から、ワークショップで日本の暮らしと世界

の貧困問題の関わりを考えさせる、またアフリカに古くから伝わる「クバーラ」と呼ばれる鬼ごっこのような遊びを通して、楽しく異文化を感じることができると取り組みを進めています。

昨年開始した新しい独自事業は、さらに市民参加の機会が開かれたプロジェクトで

カンボジアの都市、シエムレアプという地域は世界遺産アンコールワット遺跡群があるため、世界中から観光客が集まりますが、実は貧困率が非常に高い州です。

観光業に就くためには、外国人観光客に対応できる語学力などが必要なため、進学率の低い農村地域の人々が現金

20日、福岡市で開いたサンプル商品の品評会には資金提供者に参加してもらい、実際に売れる商品になるための意見やアイデアを求めました。

収入を得ることは非常に困難であるからです。収入が無いから学校に行かせられない、学校に行けないから就職できず収入が低いといった「貧困の連鎖」の状態となっています。

そこで九州海外協力協会の友人を感じられることが、国際平和への第一歩なのかもしれない、国の境目を超えて「友人と語ります。」

世界は遠いけれど実は近い、国の境目を超えて「友人と語ります。」

資金は寄付を通じて集め、ヤシの葉を使って小物入れやアクセサリーなどを製作。8月

ヤシの葉で作った小物入れやアクセサリーを持つカンボジアの女性



原則毎週月曜掲載